植物防疫講座

虫害編−10
フタオビコヤガの発生生態と防除

鳥取県農業試験場　奥谷（おくたに）　恭代（やすよ）・福田（ふくだ）　侑記（ゆうき）

はじめに

フタオビコヤガ *Naranga aenescens* Moore は，日本および東南アジアに広く分布する水稲害虫（図−1）である。本種は 1960 年代半ばまでは一般的な水稲害虫であった（宮原，1972）が，その後急激に減少し，ごく一部の常発地以外では防除対象から除外されていた。ところが，2000 年ころから各地で本種の発生面積が急増し，常発地のみならず平坦部においても多発生地域が拡大した（小谷ら，2005；衛藤，2009）。鳥取県においても，2005 年に突然本種の被害が顕在化し，2011 年ころまで発生面積率 50〜90％で推移し，一部では減収被害が発生した。この状況をうけ，本種は全国的に再び水稲の主要害虫として位置づけられ，2016 年に植物防疫法に基づく指定有害動植物の対象となっている。

I　形　　態

成虫は体長 7〜11 mm，前翅長 18〜25 mm の小型の蛾である。前翅の色は第 1 世代以後では濃黄色で，越冬世代成虫では暗色をおびる。前翅には名前の由来になったと思われる暗紫色の 2 本の太い斜線がある。雄の斜線は明瞭であるが，雌ではやや不明瞭である（図−1）。

卵は直径 0.5 mm 程度のまんじゅう型で，特定の場所に集中することなく数粒ずつ点々と葉面に産卵される。

植物防疫

図−1　フタオビコヤガの各態
1：卵，2：1 齢幼虫，3：終齢幼虫，4：水面に浮いているツトと蛹，
5：成虫　左：雄，右：雌，6：越冬世代成虫．

Ecology and Management of Green rice caterpillar, *Naranga aenescens* Moore（Lepidoptera : Noctuidae）．　By Yasuyo Okutani-Akamatsu and Yuki Fukuda

（キーワード：フタオビコヤガ，発生生態，発生予察，管理方法）